

10月14日（土曜日）

10：00-11：00

教育講演 座長総括

「乳腺疾患、乳房ケア～医師の観点、助産師の観点から」

私たち助産師から見た女性の乳房の健康は、子どもを健やかに育てるために、また女性の生涯の健康のために大切なものと認識しています。本講演は「CLoCMiP レベルⅢ認証制度＝助産実践能力認証制度」の研修に指定されており、助産師も多く参加いたしました。

はじめに、医師の観点として、齋藤芙美先生（東邦大学医学部外科学講座）のご講演でした。乳房の構造、画像診断や検査、授乳期の乳腺炎、乳がんの治療法について丁寧にわかりやすくご講演いただきました。授乳期は腺房に乳汁のうっ滞が起こりやすく、がんによるしこりとの鑑別が難しくなります。また授乳期の乳がんは予後が厳しいケースが多いことを知り、助産師も常に疾患の可能性を意識しながら乳房ケアを行う必要性のあることを先生のご講演を聞き、再認識いたしました。

太田和世先生（かなえ母乳相談処）、加藤江里子先生（堤式乳房マッサージ法研究所）は堤式乳房マッサージ法の認定をお持ちで、地域でそして、教育の場で活躍されています。堤式は母乳育児支援について総合的・系統的に学び一定のスキルを持った助産師が認定を受けることができます。その堤式の実践値と経験をご講演いただきました。講演で語られたブレスト・アウェアネス（自分の乳房の状態に日ごろから関心をもち、乳房を意識して生活すること）について、乳房の健康に携わる医療職として大切な考え方であることを認識しました。

看護職を対象とするプログラムは本学術集会が初めての試みと聞いております。医師の方々の学術集会に看護職が参加できる機会と、医師と共通の学びができる機会を与えていただいたことに感謝しております。今後も広く母子のためにともに学びあえる機会があることを望んでおります。

東邦大学看護学部 富岡由美

シンポジウム 不妊治療と周産期 総括

東邦大学医学部 産科婦人科学講座 片桐由起子

シンポジウム「不妊治療と周産期」では、2つのご講演をいただきました。

1 演題目は、東京医科大学産科婦人科学分野 上野啓子先生から「ART 出生時の長期予後」についてのご講演です。年間6万人を超える児が生殖補助医療(Assisted reproductive Technology: ART)により生まれていますが、その9割以上が凍結融解胚移植に由来しています。ご講演では、新鮮胚移植と凍結融解胚移植をご提示いただき、また、児の短期(周産期)予後と長期予後についてご提示いただき、今後の大規模調査の必要性が示されました。

2 演題目は、佐賀大学泌尿器科学講座教授 野口 満先生から「先天性腎尿路・生殖器疾患の診断と治療」についてのご講演でした。周産期に遭遇する先天性尿路・生殖器疾患の中で、性分化疾患および性別判定不明時の診察についてご解説くださり、児の性別判定を担う分娩立会医と助産師が学会員の多くを占める本会にあわせた視点からのご講演をいただきました。

新しい命の誕生にかかわる ART と、誕生した生命の人生に大きく影響する性分化・性決定にかかわるご講演から、生殖医療および産科・周産期の重要性を改めて実感し、これから取り組むべき課題をつかませていただく機会となりました。ご講演をいただきました2名の先生方に、心より御礼申し上げます。